

# クラブ広報・雑誌・会報委員長会議

新ガバナー方針に沿って135名が始動

地区広報・雑誌委員長 川村 克人



7月7日(日)クラブ委員長会議のトップを切っ  
て、「広報・雑誌・会報委員長会議」が開催されまし  
た。

委員長110名、地区関連者ガバナー他25名、  
合計135名の大会議です。

## 1 バストガバナーのお話

まず前田直前ガバナー(クラブ奉仕部門カウン  
セラー)より、新年度委員長への提言が述べられ、  
広報活動の強化と活発化が提唱されました。

さらに、亀岡バストガバナー・堤バストガバ  
ナーから、広報活動の重要性が一層強くなっている  
現状が説明され、地域へのイメージの高揚と会員  
増強に最大の努力を払うべきと、激励されました。

## 2 ガバナーの方針

- 1) ラタクル会長のお考えには、強く共鳴出来るものがある。自主性・自発性を尊重し、理事会の裁量も大きくなった。思い切って独自性を出して欲しい。ただそれは、良識を持った責任を伴うものでもある。
- 2) 広報はまず、自分のクラブ・IM・地区・日本でどのような奉仕活動がなされているか、自分も知り、クラブにも知らせることから発足すべきである。
- 3) その基本は奉仕活動プログラムをいかに組み立

てるかにあり、新聞が真に魅力を感じて取材に  
来る位になれば素晴らしい。

- 4) WCSもクラブで考えて欲しい。つながりのあ  
る国や地域から始めて、このような奉仕をしよ  
うという決断をクラブに求めたい。これも広報  
の一環であり、ポリオ・財団奨学生等色々な活  
動が、クラブや地区・日本世界でどうおこなわ  
れているか、委員長は是非把握して欲しい。
- 5) 地区主導型で行う活動は、クラブ主導と切り離  
し次のことを行なう。

地区からRI等世界へ発信する広報活動  
や世界からの情報蒐集  
規定審議会による規定類の変更に伴う解釈  
の統一化・・・等となる。

## 3 各委員長からの説明

続いて広報関連の3地区委員長より、活動計画が  
説明されました。

### 川村広報・雑誌委員長

クラブ主導と地区委員のあり方は未だ手探り状  
態にある。

しかし自主性を助長するためのサポート情報の  
提供は積極的に進めたいとし、別記地区HP・掲  
示板・6地区委員会報告「広報・雑誌委員会活  
動計画-」にそって、「内部広報」と「外部広報」  
について説明いたしました。特に本年は、週報の  
OA化、月信のHP化、RI情報のウェブサイト  
化等内部広報の質的転換期にある。外部広報もま  
た、マスメディアに偏らず奉仕活動を通じた地域  
の方々の胸を打つ行動こそ肝要と述べました。

さらにクラブ内の情報格差の拡大が懸念され、そ  
の解消がクラブの活性化につながることも強調し  
ました。

### 西山OA化委員長

広報・雑誌委員会からの要請に基づき、地区ホ

ホームページ内に「クラブ会報展示プラザ」「クラブ・プロジェクト広報プラザ」(仮称)と称する情報交流の広場新設を提案いたしました。

概ね全体的な賛同が得られたので、7月20日OA化委員長会議で技術的な内容を含め、討議されることとなりました。

#### 上野山広報・情報・規定委員長

本年度は、手続要覧・定款等が改定された時であり、その解釈統一等にかかなりの時間が費やされ、しかもすぐ2004年に向けた提案の積極的論議も進める必要があると述べられました。このため、各クラブにアンケートを回付中であり、8月10日の情報・規定委員長会議で集約した計画を提議する旨説明されました。

#### 4 講評(ガバナー補佐及びガバナーエレクト)

質疑応答の後、まず12名のガバナー補佐から講評を頂きました。

奉仕活動が多種多様化した現代社会では、ロータリーの考え方を正確・適確に伝えるため、広報の積極化が必要という事はほぼ全員のお考えでした。ただウェブサイトを活用した情報提供には、あまりピッチが早すぎると老年層はフォローし切れなくなると、配慮を要望されました。

前窪ガバナーエレクトは、全国紙への掲載記事が非常に多い和歌山南クラブの実践例を述べられ、マスメディアへのアプローチは日常的で積極的な人脈形成こそ肝要と強調されました。

以上の経緯を得ていよいよ小島年度の広報関連委員会はスタートいたしました。